

令和4年度 修了式「惜別」 3 / 2 3

今日は、令和4年度の最後の日です。この1年間、皆さんは本当によく頑張りました。とても素敵に成長しています。

特にお友だちへの思いやり、お友達を大切にすることが素敵です。お友達が嫌がることを言ったり、意地悪したり、そういうことがほとんどありませんでした。でも、実は、時々ありました。悲しい思いをして、涙を流している姿は、胸が締め付けられます。しかし、皆さんの良いところは、そういう残念なことがあった時、何とか解決に向けて努力していました。富士見丘小の皆さんはとても立派です。

さて、明日は6年生の卒業式があります。皆さんの憧れである6年生と、いよいよお別れですね。

別れは寂しいものですが、「手の中に何かを掴んでいるともう何も入って来ない。けれど、いったん手放してみると、その空いた手に別の何かが入って満ちてくる」という言葉があります。失ったものだけを見るのではなく、得たものを見ることも大事だということです。

たとえば、3年前に新型コロナウイルスが流行り始めて、私たちはたくさんのものを失いました。当たり前前にできていた日常生活が、ある日突然、できなくなりましたね。とても窮屈です。

でも、たくさんのことができなくなったことで、まったく新しい何かを手にすることがあります。学校では、一人1台のタブレットが入りました。とても便利です。オンラインができるようになって、離れていても、つながることができるようになりました。学校行事や授業も、新しいやり方を考えるようになりました。家庭では、家族と過ごす時間が増えたり、健康的な生活を過ごすようになったり、新しいことに挑戦するようになったのではないのでしょうか。

4月になると、6年生や先生方と別れたり、お友だちともクラスが別々になったりします。でも、新しい先生との出会い、きっと新しい友だちもできます。そんな前向きな気持ちを大切にしてください。

今年は、一足早く、先生方の別れの発表がありました。府金副校長先生が他の学校の校長先生に、関谷先生が他の学校の副校長先生になります。松清先生、田面木先生、上出先生が他の学校に行くことになりました。そして、塩入先生はお引越して、東京から遠くに離れることになりました。

この後、御挨拶をしていただきます。しっかり受け止めてください。